

高齢者の美容医療のトラブル

山下理絵 YAMASHITA Rie

湘南藤沢形成外科クリニックR総院長

1 はじめに

全国の消費生活センター等に寄せられた美容医療に関する相談件数は、2016年8月31日に出されたデータでみると、60歳以上の相談件数は2014年度がピークであるものの、契約購入金額は年々高額化していると報告された(図1)¹⁾。「シワ伸ばしのためにクリニックに行ったら即日施術され、約1,300万円を請求された」など、通常では考えられない事例も起こっている。一方、2021年5月には、美容医療のトラブルが10～20歳代の若者に増えていることが報告された(図2)²⁾。「10万円全身脱毛」の広告をみたが、実際は70万円の高額コースを勧められ解約したいといった相談事例がある。一昔前であれば、腋窩だけでも50万円以上していた脱毛治療であるが、最近は比較的安価であり、皆もやっているのと10歳代でも契約してしまうことが多いようである。美容医療を受ける年齢層が広がっているため、とくに若年者、高齢者に対しては相手の理解度を確認することが必要である。今回、高齢者に対して美容医療がもたらす効果およびトラブルに関して述べる。

2 高齢者の美容医療の効果

世界保健機関(WHO)では「高齢者は65歳以上」と定義され、2065年の日本の人口のうち約2.6人に1人が高齢者になると予想されている³⁾。日本では65～74歳を前期高齢者、75歳以上を後期高齢者としているが、75歳でも日本人の平均寿命まで5年以上あり、このあいだを元気に

生活、そして活躍したい、さらに若々しく美しくありたいという望みは誰もがもっている。しかし、加齢により、白髪が増え、毛量が減り、容貌が変化し、さらに視力、聴力、筋力も衰えはじめる。シミ、シワも増え、上下眼瞼は下垂し、頬部が下垂して鼻唇溝(ほうれい線)が深くなる。最近では、多くの人が白内障の治療をするようになり、術後に視力が回復して自分の加齢変化に驚き、美容医療を受けるきっかけになることも多い。

昭和の時代を描いた漫画「サザエさん」に登場する「波平」お父さんは54歳、定年まであと1年という設定であるが、その顔貌、容姿は、令和の現代であれば65歳以上ではないだろうか。令和になり、さらに高齢化が進み高齢者そのものの概念も変わりつつある。

各種の意識調査で、従来の65歳以上を一律に高齢者とすることに否定的な意見が強くなり、75歳以上を高齢者の新たな定義とすることが提案されているようである。以下に高齢者の美容医療にかかわる考察を示す。

1. 高齢者の美容医療、スキンケアによる心理的効果

高齢者が美容医療やスキンケアを楽しむことは、QOLの維持につながる。治療の長期的効果で幸福感が高まり、うつ感情や不安感情が軽減されるほか、周囲から「きれい」と評価されることで自信をもてるようになり、行動範囲が広がり、生きる意欲にもつながる。

2. 高齢者の美容医療、スキンケアによる身体的効果

日々のスキンケアを行う動作によって、加齢によって低